

# 令和3年度 花鶴小学校 学校グランドデザイン

令和3年4月1日  
古賀市立花鶴小学校  
校長 西田 豊

## 1 花鶴小学校はこんな学校を目指します (学校の教育目標)

**志高く、未来を創造する子どもの育成**  
**やさしく【社会力】 たくましく【生活力】 かしこく【学力】**

## 2 学校の教育目標達成のために、今年度ここを重点にします (今年度の重点目標)

～きもちを高め実践する、凡事一流をめざして～

**き** : 気持ちのよい挨拶 (社会力) ①立ち止まり ②かかとをそろえて ③大きな声で

**も** : もくもく掃除 (生活力) ①黙って ②時間いっぱい ③すみずみまで

**ち** : ちゃんと学習 (学力) ①腰骨を立て ②「はいっ」と挙手し ③長く話す

※ 「凡事一流」とは、当たり前のことを当たり前でできること

## 3 花鶴小学校が抱える教育課題、経営課題です

### 本校の教育課題

- (1) 児童の人権が尊重され、一人一人が大切にされていることを実感できる学校づくりを第一義とすることをあらためて確認する必要がある。
- (2) 根幹となる挨拶・掃除・学習規律のさらなる定着と向上を図る必要がある。
- (3) 教員に言われたことはするが、受け身である。自分で考えて行動しているとはいえない。

### 本校の経営課題

- (1) 一人一人が大切にされている実感されるような学校を第一義とし、学習活動・人間関係・環境づくりに努める必要がある→「共通目標の共有」が必要
- (2) 挨拶・掃除・学習規律を高め、実践しようとする学校の重点目標が教職員や児童、家庭、地域に意識されてきたが、まだ十分ではない→「浸透」が必要
- (3) 挨拶・掃除・学習規律がどうしたら高まるのか、学校で統一した細かい部分の指導が隅々まで行き届いていない→「徹底」が必要
- (4) 挨拶・掃除・学習規律を高め、実践しようとする児童を育てることができるよう、教職員の力量をさらに高める必要がある→「人材育成」が必要
- (5) 家庭・地域でも実践できるよう、学校・家庭・地域が一体となって児童を育てる必要がある→「連携」が必要
- (6) 挨拶・掃除・学習規律をさらに高めるため、円滑な業務活動を妨げる無理・無駄・むらをなくす必要がある→「軽減」が必要
- (7) 教員に言われなくても、自分で考えて学ぶ児童に育てる必要がある。→「自分で考えて学ぶ学習習慣」を育成することが必要

## 4 学校は重点目標を達成する為に次のことをします (経営の重点)

(1) 共通目標の共有…コロナ禍が継続することを想定し、児童一人一人が大切にされていることを実感できる学校をつくるために教職員一丸となって取り組む

- ① 教科等指導…学習活動づくり
  - 一人一人が大切にされるよう、つぶやきで授業を進めず全員参加の授業をめざす。
- ② 生徒指導…人間関係づくり
  - どんな学級にしたいか、学級活動で児童の力で決め共有
  - 児童理解を深めるために、「いじめアンケート」を実施し活用
- ③ 学級経営等…環境づくり
  - 学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践できるようにする学級会の充実
  - 安心して過ごせる学校・教室にするため、「学校生活・環境多面調査」を年2回実施

(2) 浸透…本年度の重点目標を覚えやすい文言にし、浸透させる

- ① 本年度の重点目標…「きもちを高める」
  - 気持ちのよい挨拶の頭文字「き」
  - もくもく掃除の頭文字「も」
  - ちゃんと学習の頭文字「ち」
- ② 教職員・児童への浸透
  - 校長室前掲示板に掲示 ○ 全校朝礼の「校長先生の話」で ○ 全校放送で
- ③ 保護者・地域への浸透
  - 学校だよりで ○ PTCA 総会・入学者説明会等のあいさつで
  - スマホやタブレット等のスマートデバイスを通して(安心メールや Facebook で)

### (3) 徹底①…細かい部分まで徹底した学習指導を行う

- ① 花鶴小学校が大切にしている 12 の学習規律
  - 【立腰】、【はじめとおわりのあいさつ】、【めあての読み方】
  - 【挙手の仕方】、○ 【前に出て説明】、【低ペア交流・中高グループ交流】
  - 【字の書き方】、【発表の仕方】、【話のきき方】
  - 【音読の仕方】、【教え合い、学び合い】
- 以上の学習規律を生み出す教育技術としての◎【板書】 ◎印は本年度の重点
- ② 立腰の徹底→朝の時間における「腰骨タイム」の確実な実施
- ③ 新転任者にプレゼン説明・ビデオ視聴を通して、「児童が挙手し長く話せるようにする指導法」を目で見てわかりやすく教える新転任者研修会を実施
- ④ 全校朝会で上学年が「腰骨を立て、「はいっ」と挙手し、長く話す」姿を示範

### (4) 徹底②…細かい部分まで徹底した挨拶・掃除・コロナ対策の指導を行う

- ① 気持ちのよい挨拶の徹底
  - 保護者・地域の方と校長が朝、学校や通学路で挨拶指導
  - 立ち止まり、かかとをつけて、大きな声で挨拶することを児童に定着
- ② 掃除時間での「もくもく掃除」の徹底
  - 掃除時間開始前、40秒の黙想をしてから掃除に取り掛かることを継続
  - 掃除区域を見直しピロティ・外掃除をする児童を増やす
- ③ 学級園・プランターの整備
- ④ 3つの基本:A身体的距離の確保、Bマスクの着用、C手洗いを徹底するをはじめ、新型コロナウイルス感染症感染防止対策を徹底する。

### (5) 人材育成…昔の人材育成法から転換し、世代に即した人材育成を行う

- ① してみせる
  - 新転任者を中心に校長が部分的に授業に入り、学習規律の徹底の仕方をやってみせることにより、技を伝承する「授業サポート」を実施
- ② 言ってみせる
  - 同学年を生かしたメンター制度。メンター（先輩教師）がメンティ（後輩教師）を支援
  - 授業がうまくいくように事前に細かいところまで指導したのちに公開授業を行わせ、教員に、「できた・うまくいった」という成功体験を積み重ねさせる
  - 教職員に必要な知識・技能を学ぶ場としての一般研修の実施
  - 若年講師等指導教員のポスト「講師等指導教員」を継続して設置
- ③ させてみる
  - 中堅教諭等資質向上研修が終わっていない教諭や講師等を中心に「教室訪問」を実施
  - 全教職員が参画しながら基本研修を実施
- ④ 教育公務員としての自覚を高め不祥事を防止する研修の実施
- ⑤ 全ての教員が Chromebook・電子黒板を使いこなせるようにする研修の実施

### (6) 連携①…家庭と連携する

- ① かつるフェスタの成功
- ② 花鶴小 PTCA で構成されるコーラス活動「フラワーレイズ」の継続
- ③ 新1年生保護者を対象とした福岡教育事務所社会教育主事の家庭教育に関する講話の継続

### (7) 連携②…地域と連携する

- ① 地域に学ぶ、地域を生かす、地域に貢献するカリキュラムを開発
- ② 地域行事へ参加する。
- ③ 学校の Facebook の定期的な更新

### (8) 軽減…学校の円滑な業務活動を妨げる無理・無駄・むらをなくす

- ① 教材研究・授業準備の教科を減らし負担を軽減するため、隣のクラスの児童の顔と性格を知り生徒指導に役立てるため、担任・児童の実態に応じて学年相互での交換授業を試行
- ② 文書の精選
  - 「学校だより」「学級だより」と内容が重複している「学年通信」の発行見送り
- ③ 行事内容の精選
  - 運動会等学校行事の内容スリム化
- ④ 会議の精選
  - 校長が職務の円滑な執行に資するため必要と判断したときに学年主任者会を主宰
- ⑤ 主題研修の精選
  - 主題研修は教科を算数一教科にしぼり、その教科で学んだ指導法を他教科に波及させる。
- ⑥ 授業時数の精選
  - 児童の実態及び標準授業時数を踏まえて、授業時数を精選。余裕時数を最小限度に
- ⑦ 週時制の見直し
  - 高学年の授業時数を週 27 時間で計画。週 3 日 5 時間に

## 5 学習習慣形成を経営の最重点にします

～ただし教員・児童の負担増にならないよう学習習慣形成そのものを主題研修にします～  
研究主題 **自律した学習者を育てる学び方指導**  
～学習規律、学習方法、学習習慣の指導を通して～

### 1 自律した学習者を育てる学び方指導とは

自律した学習者とは、教員に言われなくても、自分で何をすればよいのか考えて学習する人である。自律した学習者を育てる学び方とは、以下のように三つに分けられる。

- ・ **狭義の学び方…学習規律**。これは、上述した今年度の重点目標である「きもち」の「ち」の部分。日々の授業で積み重ねていく。
- ・ **本義の学び方…結果よりも思考の過程を重視する学習方法**。日々の授業で獲得させる。
- ・ **広義の学び方…予習→授業→復習が往還する学習習慣**

本プロジェクトでは、学び方の狭義・本義・広義である学習規律、学習方法、学習習慣の3側面への指導を通して、つまづいたときに自分で課題を発見し克服できる自律した学習者を育てようとするものである。

### 2 なぜ学び方の指導なのか

児童の様子を見ると、以下のように、学び方に課題に感じることもある。

教員から与えられた宿題である漢字練習・ドリル学習を非常に好むことである。漢字練習・ドリル学習は、流れ作業的に長時間多くの量取り組めるので、たくさん勉強したような満足感を得られやすい。ここには、させられている宿題であり自分で考えて家庭学習に取り組んでいないという課題や、何をどのように家庭学習したらよいか分かっていないという課題、授業内容と宿題が必ずしも一致していない(国語科で「俳句」について学習したのに、宿題は漢字である等)ので定着しないという課題もはらむ。

その結果、小学校で自分で考えて家庭学習に取り組む学習習慣がついていないため、中学校になって自分で家庭学習をしないといけないとき困るのである。

また、量はこなしているのに、質が伴っていないために学習内容が身に付いていない児童がいる。勉強ができる児童は、自分は何が出来ていないのか、どこが間違っているのかを分析して次の学習に生かすが、できない児童は答え合わせをするだけで、間違えても原因を振り返ろうとしない。時間をかけて覚えても、丸暗記をするだけで理解していないために結局身に付かず、テストが終わるとすぐに忘れてしまうのである。つまり、児童の学び方の違いが学力の差としてでるわけである。

### 3 授業で、結果よりも思考の過程を重視する学習方法(本義の学び方)を獲得する

- ① 認知心理学の知見を生かした花鶴小学校が大切にしている3つの学習方法
  - 深い認知的方略…意味を理解しているか→認知的方略には浅い処理と深い処理があり、浅い処理は書いたり唱えたりする反復重視の学習方法で、深い処理は意味を理解しながら覚えたり、なぜそうなるのかを考えながら解く、意味理解を重視した学習方法である。
  - メタ認知的方略…自分の弱点を把握しているか→自分が分かっていること、分かっていないことをはっきりさせたり、自分の弱点を分析したりと、自分の頭の中の働きを客観的に見ながら学習を進める学習方法である。
  - 外的リソース方略…他者や図などの外的資源を活用しているか→図や表、他者など、自分以外の外的な資源を使いながら問題を解決する学習方法である。
- ② 3つの学習方法が見えやすい算数科から授業改革に取り組む。
- ③ 算数科において、予習を生かした授業、少し難しい二つ目の問題で理解を深める授業、復習・予習として何をするか自分で決める授業という予習→授業→復習が往還する授業を展開する。

### 4 宿題を家庭学習に変換し、予習→授業→復習が往還する学習習慣(広義の学び方)を形成する

- ① 結果よりも思考の過程を重視する学習方法(本義の学び方)を獲得する授業についての基本的研修を終えたあとから(1年生は2学期から)算数科の予習を家庭学習に位置付ける。
- ② 児童が、その日の学習内容(振り返り)をもとに、自分で何をすればいいか考えて復習をする。計算ドリルでも、教員が宿題として「計算ドリルの□」として与えるのではなく、なぜ「計算ドリルの□」をするのか自分で考えて復習できる児童を育てる。
- ③ 白い業者テストの日程は前日までに児童に知らせる。そのことにより、自分で何をすればいいか考えて、テストに向けた家庭学習をする習慣を小学校で形成する。(発達段階に考慮しながら家庭学習に自学ノートを取り入れる)